

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアセス北梅田		
所在地	大阪市北本庄区西1-9-12		
自己評価作成日	平成 31年 1月 14日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームアセスの意味は『いつも・笑顔で・楽しい。空間』という意味が込められています。ご入居者もスタッフも共に笑顔の絶えない楽しい施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2794100020-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を迎えるグループホームは、10階建てのビルの2階にある2ユニットのホームです。2ユニットが1フロアにあり、食堂やリビングの共用空間は広く、娯楽室にはソファが置いてあり、ゆっくりと過ごせる空間となっています。町内会に入り、運営推進会議では身体拘束について話し合いを行ったり、保育園児や傾聴ボランティアなど地域との交流を通じて、利用者の楽しみに繋がる取り組みが実践されています。ホームの理念を基に、ホームの名称「アセス:Always Smile Enjoy Space」の「いつも・笑顔で・楽しい・空間」が提供されています。利用者の笑い声がフロアに響き、職員も笑顔で楽しく、食事の準備や片付け、掃除、花の水やりなど共にゆっくり時間を過ごしています。強制することなく、一人ひとりが主人公になれるような、やりがいや楽しみの場面づくりを大切に支援が行われています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アセス北梅田の運営理念を明記しヘルパーステーションに掲げ、日常の業務を通じて方針を職員で共有し行動するように指導している。	開設して10年を迎えたホームは、「情熱と愛情を持てる職業であることを誇りとします。人を癒し、人を活かし、人と繋がる職業であることを誇りとします。地域社会に貢献できる職業であることを誇りとします」を法人理念に掲げています。アセスの名前には、「いつも、笑顔で、楽しい空間」という思いが込められています。管理者、職員はいつも笑顔で、楽しい空間を利用者に提供するように努めています。また、この1年は「スタッフ同士が協力する」「報告・連絡・相談に努める」などの目標も掲げ、取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入り、町内の活動に積極的に参加している。 ・行事として月に2回地域のボランティアの方に訪問していただき交流している。 ・地域の保育園とも交流があり年に3回ほど合同で行事を行っている。 	町内会に加入しており、利用者が日頃から地域との交流を図れるような暮らしを支援しています。地藏盆や小学校の盆踊り、秋には御輿がホームの前を練り歩き、年間を通じて地元の行事に参加しています。地域の保育園とは、七夕やハロウィンに仮装した子どもたちが来訪するなど交流を重ねています。園児たちとプレゼント交換をすることもあります。月2回の傾聴ボランティアの来訪も定着しています。	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	北区にこりんくの会に参加し、意見交換、お手伝い等をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度開催し、施設の活動報告及び予定を話し、参加者よりご意見・アドバイスを頂き取り入れる様努めています。</p>	<p>運営推進会議は、開催規程に沿って2か月に1回開催しています。構成メンバーは、家族、社会福祉協議会会長、町内の代表者、地域包括支援センター職員、他グループホームの職員などです。ホームより活動の状況、行事などの取り組みを報告しています。この数回は、身体拘束に対するホームの取り組みを報告し、参加者と一緒に利用者の尊厳などを考える機会にもなっています。意見交換の中で、季節の花を定期的にもらえるようになり、プランターで花を育てるなど、利用者の楽しみに繋がる取り組みが実践できています。職員は、運営推進会議を通して、地域と連携できることを感謝しています。また、議事録を全家族へ郵送するよう検討しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>GH連絡会や運営推進会議などで地域包括支援センターの職員の方に報告・相談し情報を提供して頂き、助言を得ています。</p>	<p>グループホーム連絡会を通じて、北区のグループホーム間で、情報交換や学習会が定期的に行われるようになりました。地域包括支援センター職員の参加もあり、事業所間でのケアの向上に向けた取り組みが行われています。生活保護受給者の相談事や事故発生の際には、その都度、区に報告をしています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員に対し「身体拘束のないケア」を目指し社内研修で身体拘束について理解を深め、意識の向上を図っています。2ヶ月に1回身体拘束について話し合う場を設け身体拘束をなくすよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアの大切さを十分に理解しています。スピーチロックや拘束 11 項目の防止については、日頃から学習会や職員への指導をしています。家族から、転倒防止や安全面での要望もあり、ベッド柵をすることもあります。その場合は、定期的にカンファレンスを行い、必要に応じた対応方法を検討しています。 ホームの構造上、玄関先が死角となっており、エレベーターは暗証番号での管理となっています。自由な暮らしを提供できるよう、外出したような利用者については、付き添うなどの支援をしています。</p>	<p>エレベーターの暗証番号については、今後も何らかの対応策を検討することが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し「虐待防止」について社内研修を行い、知識を深め、不適切なケアの無い環境作りをしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設でも後見人制度を利用している方が増えており、キーパーソンの環境・負担等を考慮して話をする機会を設けている。権利擁護については年に1回社内研修を実施するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族からの質問があれば説明を行い理解して頂ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱は常時設置を行ない、施設に対して直接いえない場合に利用して頂くようご家族に説明している。</p> <p>又、直接伺うことができる場合は職員及び会社の上層部に報告する。</p>	<p>管理者、職員は、家族の面会時には積極的に声をかけ、利用者や家族の意見、要望を聞きとり、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしています。毎月の「アセスだより」を通じて、利用者の様子を伝えています。来訪回数少ない家族には、電話で積極的に連絡をしています。傾聴ボランティアによる利用者の要望の把握、外食などの個別対応の時間を通じて、一人ひとりの思いを聞く機会を大切にしながら、日常の支援に繋がっています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回社内会議を開き職員からの見解は代表者に届く様努めている。</p> <p>カンファレンス等で職員の意見・提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>管理者は、職員も利用者も笑顔で過ごせるグループホームを目指しています。主任、副主任より、職員の意見や提案を聞き取り、ホームの運営やサービスの向上に努めています。管理者は、日頃より職員の意見を聞きながら、職場環境の改善にも力を注いでいます。年2回の個別面談の他、職員と交流を図り、意見や提案を運営に反映させています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の労働意欲の向上の為、自己評価を実施し目標を持って取組めるよう努めている。 年に1回の昇給制度 有給休暇取得の自由 サービス残業はさせない</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1ヶ月に1回社内研修を行っている。 入社して3ヶ月は試用期間を設け指導者をつける。 経験に応じて、社外の研修も受けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北区 GH 連絡会を通じて他施設との交流を活発に行っている。 また、大阪市のグループネットワーク研修に参加し勉強会や意見交換等を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際に御が本人の性格や生活の様子を十分に聞き取り、入居時に発生する困難を出来るだけ少なくする様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から今までの生活の様子を詳しく聞き、また、家族の要望も聞き、家族が安心して親御さんを預けられる様に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ早く施設の生活や環境に慣れて頂く様、職員全員が支援方法を統一して混乱されない様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH 本来の生活の支援という形から出来る事は一緒に行って頂くという姿勢で接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出等、許す限り家族と共に過ごす機会を持って頂く為のお声かけを常にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪されるのは構わない事はお伝えしている。 また、年賀状を出す支援も行ない、馴染みの関係を大切にしている。	近隣スーパーへの買物や喫茶への外出時など、馴染みの人と出会うことがあります。また、家族の協力も得ながら墓参りや孫の結婚式、自宅への外泊にも取り組んできました。利用者の状態により、少しずつ、遠方への外出は難しさも出てきていますが、年賀状を出すなどの支援や友人や家族が来訪しやすい雰囲気づくりに努めています。傾聴ボランティアの継続した訪問で、新たな馴染みの関係もできています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をしたり、楽しく日常を過ごせるような環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由により、継続した関係は難しい場合の方が多いが、出来るだけ気軽に訪ねて下さる事が出来る関係であり続けたいと考え、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取る事は容易ではないが、出来る限り本人らしく暮らして頂ける様に努めている。	入居時より、利用者や家族の思い、暮らしの希望を聴取して生活記録表にまとめています。また、一人ひとりの日中の過ごし方や何をしたいか、利用者の言動から把握するように努めています。食事作りの過程では、広告を見ながら利用者と一緒にメニューを決めたり、食後の片付けなどの役割を分担しています。居室の掃除、新聞の購読などの希望、また、居室でゆっくり過ごしたいとの希望があれば無理強いすることなく、一人ひとりの意向に沿った対応をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の様子などはアセスメントの段階で家族様から聞かせて頂き、職員全員が共有して援助にやくだてる様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々得る事が出来た情報は、職員全員が周知し活かす様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回チームカンファレンスを行ない、家族の希望・意見も取り込み、その都度現状にあった介護が出来る様、介護計画を作成している。 介護計画に対し、月1回モニタリングを行ない、3ヶ月毎必要に応じて見直しを行っている。	介護計画は毎月カンファレンスを実施し、モニタリングを行い、3か月毎に見直しをしています。ケアマネジャーや居室担当者は、利用者、家族と積極的に関わり、望みや思いなどを把握したうえで、利用者の楽しみやできることなどを日々のケアに活かしています。利用者情報は1冊のファイルにまとめられていますが、これまでの生活歴や習慣など、全体像が見えにくいものになっています。	入居後得られた新たな情報の追記、また計画と日々の記録の連動が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個々の介護日誌に記入を行ない、特に気づいた事、注意すべき事は申し送りノートに記入し、日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて取り入れるものは早急に対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な地域資源を活かし、楽しい生活が送れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医はもちろん、個々のかかりつけ医とも友好関係を築く様支援している。 また、夜間や緊急時にはオンコール体制を構築し、かかりつけ医との連携も図っている。全ての利用者が往診を月2回受けている。 訪問看護の定期的な看護も受けている。	関連グループの医療機関がありますが、受診医療機関は、利用者や家族の選択を基本としています。入居前のかかりつけ医が往診する場合があります。協力医療機関より、月2回の内科医の往診があります。また、月1回訪問看護による健康チェックを受けています。歯科医の往診は週1回あり、利用者は必要に応じて口腔ケアなどの診察を受けています。通院については家族の協力も得ながら進めており、職員が受診介助をした際には、家族へ診察後の経過を伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、その都度情報交換を行い、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者が入院した時には定期的に見舞いに行き、担当医師・看護師・家族様と情報交換を行っている。 医療機関の協力も得ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化・終末期に対する対応はその都度家族様・医師と話し合う場を設けている。</p>	<p>重度化、看取りに関する指針を作成し、グループホームでできることを伝えていきます。利用者や家族の希望に応じて、重度化した場合や看取りに対する指針について説明を行い、利用者の状態に応じて、医療との連携を図りながら対応しています。開設以来、職員研修や職員間での連携を図りながら、終末期ケアに取り組んでいます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時・事故発生時に備えて、職員全員が慌てない様にマニュアル作成、職員間でのコミュニケーションはしっかりと取り、常々心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>スプリンクラーの設置、非常口の確保・確認、年2回の消防避難訓練を行っている。 災害時に対し、食料や水の備蓄もしている。</p>	<p>防災マニュアルや緊急時連絡網を作成しています。避難訓練は、年に2回消防署の指導のもと実施しています。ホームが2階であることから、避難経路として階段を使用するため、実際に経路を確認しながら訓練を行っています。スプリンクラー、消火栓、消化器などを設置し、避難経路の表示もしています。台所はIHの調理台であり、火災が起こるとすれば漏電の可能性があることから、日頃の掃除にも注意を払っています。備蓄は、水・缶詰、チョコレートなどの食料品に消費期限を記載して整理しており、必要量を準備しています。常備食以外のおむつやランタンなども完備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場である事を留意した上で、言葉かけや対応に気を配った支援に努めている。	プライバシーの保護、権利擁護などの研修会を行っています。日常的な言葉遣いや声のかけ方については、常に意識を向けて、なれ合いにならないよう、一人ひとりを尊重した対応を心がけています。職員の利用者への言葉かけや対応は丁寧で、笑いの絶えない雰囲気から自由な暮らしが伺えます。排泄時の声のかけ方には注意を払い、自立支援を目指して、自発的な行動に繋がるよう、利用者へ感謝の言葉かけを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲ではあるが、自己決定・希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつの時間以外は自由な時間を持って頂いている。 行事やアクティビティーに関しても声かけは必ず行いが強制はしない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を間違えていない限り、出来る方には自分で選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備・お膳拭き・洗い物などを職員と一緒に手伝って頂いている。 メニューも利用者から聞き、取り入れている。	朝・夕食は、ホームで調理をしています。昼食は、御飯、みそ汁をホームで調理し、おかずのみ仕出し屋から取っています。毎日のメニューは各ユニットがそれぞれ広告などを参考に、利用者の声を聞き、相談して決めています。食材は、月・水・金の3回、近隣スーパーで購入しています。可能な範囲で利用者と一緒に買い出しに行っています。準備や片付けなど、利用者もできる範囲で一緒に調理の過程に関わっています。外食やおやつ作り、誕生日のケーキは、利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はその都度確認・記録している。 また、持病により量の加減は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけ・見守り、出来ない方にはその都度職員が声かけ・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の記録を残し、一人ひとりのパターンに合わせて声かけ・誘導を行っている。	職員は利用者ごとに細かく排泄チェック表を作成し、利用者の排泄リズムを把握しています。利用者の排泄リズムや習慣に合わせて、昼間はトイレでの排泄を支援しています。重度の利用者も昼間は可能な限り、職員が二人介助によりトイレでの排泄を支援しています。水分摂取量も併せて記録に残しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、日中こまめに水分摂取の声かけ、食物繊維の食べ物の摂取、運動、口腔体操を行い、よく噛んで食べていただくよう声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を基本として、声かけ・誘導を行いながら、個浴でゆったりと入浴していただき、職員と会話をしたり、楽しく入浴していただいています。拒否の強い方は入れる時に入って頂く事もある。	利用者は平均して週 2~3 回入浴しています。重度の利用者には職員が二人で介助を行いますが、体調により清拭や足浴、ドライシャンプー等を取り入れて清潔を保っています。入浴を好まない利用者には決して無理強いせず、気持ちよく入浴ができるように職員は工夫を重ねています。利用者が楽しくゆっくりと入浴が出来るように、職員は個人に合わせて湯の温度、入浴時間等を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、居室では自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師と連携し、常に確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には出来る範囲で声かけを行ない、色々な内容を役割・気分転換として手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的には、近隣のスーパーへ食材の買い物を兼ねて職員と一緒に外出している。また、地域行事の参加として、初詣、お花見、盆踊り、敬老会など外出が出来る機会を設けて支援できる様取り組んでいる。</p>	<p>利用者は日常的にホームの近くを職員と共に散歩したり、近くのスーパーへ食材の買い物に出かけています。近頃では買い物に出かけた時に近所やお店の方から声をかけられ、顔馴染みも出来ました。玄関前で育てている花の水やりも利用者の日課となっています。ホームの行事として花見、地域の盆踊り、紅葉狩り、初詣等に家族を誘って出かけています。ホームでは利用者の重度化に伴い、日常的な外出が困難になりつつあります。今後はどの利用者も楽しい外出が出来るように、職員間で検討していく計画があります。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御本人より問いがあれば「御家族から預かっています」と伝え、対応している。また、希望があれば一緒に買い物へ行き、購入を行ったりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>申し出があれば自分で掛けられるように支援し、また、職員が代わりに掛けてお渡しする事もある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	施設内の照明・空調には常に気を配っている。また、廊下やフロアなど季節感を感じていただく為に写真や創作物等を掲示している。	ホームはビルの2階にあり、広いフロアを2ユニットに分けています。リビング、キッチン、廊下等共用空間は広くてゆったりとしています。共用空間には、随所に大きな椅子やソファが置かれています。利用者は思い思いの場所で会話を楽しんでおり、笑い声が聞こえてきます。利用者が集まるリビングには、自分達が作った季節を感じる貼り絵や外出の写真が、また全員が見やすい場所に「お知らせ」や「今日の天気」、「今日の食事メニュー」が写真を添えて掲示されています。キッチンは広くて動きやすく、赤いエプロン姿の利用者が生き生きと食事の後片付けをしている様子が見えます。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有スペースは自由に行き来する事ができ、本人のお気に入りの場所を作ったりされるのを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内のレイアウトは御家族様・御本人に任せており、馴染みのあるものや、思い出のある物を自由に持ち運んでいただいている。</p>	<p>各居室入り口には利用者の習字作品が飾られています。各居室は明るく、障子から入る日差しはやわらかく、室内は和の雰囲気で包まれています。居室内は各々好みにより個性があり、雰囲気が異なっています。使い慣れた家具、仏壇、家族写真等を飾っている居室、またテレビ、冷蔵庫、ラジオ、加湿器、空気清浄機等や可愛いマスコットを並べて、利用者同士が交換した手紙を大切に飾っている居室もあります。利用者はそれぞれお気に入りの居室でゆったりと落ち着いて過ごしています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>本人で出来ることは頑張っている。出過ぎた介護は行わず、安全を考慮しつつ見守っている。</p>		